

カツオ「剛腕一本釣り」密着 小沢

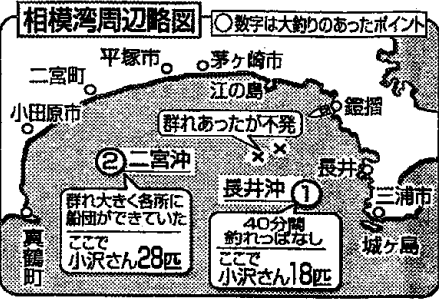
スポニチ特報版社会面ワイドビューと3ページ

党首

第21たいぞう丸 船長感心の腕前

○この日、小沢氏に大漁をもたらした山本真一郎船長は21歳。釣りを船を操り始めて4年目だ。小沢氏を

剛腕の異名通り、爽快なカツオの一本釣りを見せた小沢党首。釣果を手に普段は見せない笑顔を見せた小沢氏(左)と船長(右)。

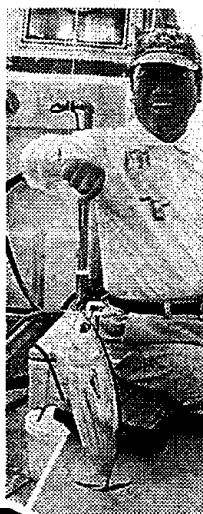


相模湾沖合へ出船

参院選も臨時国会も終わりの、永田町のセンセイ方もつかの間の休息を兼ねて、8月13日、小泉旋風の「中、改選3」議席を倍増させた自由党の小沢一郎党首(59)が、過密スケジュールをやりくりし、大好きな釣りに出掛けた。例年より早くやって来た本カツオの群れが大ブレイク中の相模湾で、2匹級の大物を「剛腕」で次々に釣り上げる大漁。「忙中閑あり」を地でいく小沢氏のフィッシング・ホリデーに密着取材した。

意外な「休日」の素顔「見」ちゃった

「釣りはせいぜい1日、2日、たつぷり時間を使うだけ。たつぷり時間を使うだけ。連日、分刻みのスケジュールで政界の荒波を渡る小沢氏にとって、待ちに待った至福のひと時。本物の波の上には政敵も書記者もいない。この日の格闘相手は、パワーとスピードでは政治家を上回る。本カツオだけだ。



参院選終了趣味で「一息」 永田町では見られない?!

小沢氏を乗せた「第21たいぞう丸」は、神奈川県山町の船溜(あぎとり)港を午前6時すぎに出船した。曇天で涼しく、波も穏やか。小沢氏は「最高、最高のね」を連発し、早朝にもかかわらず、遠足前の子供のようテンションは高かった。出船までの時間、港でほかの釣りに交じって海を見つめる姿は、選挙明けも手伝い、まるで漁師。こぼりへの「問、誰」

ごめんね生き餌1匹1匹に

謝陳にワンイ

が上手な人と分りましたよ。途中で飽きちゃう人も多いんですが、ずっと真剣にやってくれたことが何よりうれしかったです」と笑顔。小沢氏も「広い海の上でヒタリと群れを探し当てるんだから、凄いな。若いのに立派なもんだ」とエール。海男の男、同士、心を通わせたようだ。山本船長は「いつでも来てくれたさい。大歓迎ですよ」と、小沢氏にラブコールを送っていた。

も小沢氏とは気が合なかったほどだ。出船から約1時間半後に長井沖で大きな群れに遭遇。剛腕と本カツオの対決のゴングが鳴った。それまで談笑していた小沢氏は、船長の「群れがいたよ」の声を聞き、一目散に竿に飛び付き、戦闘開始。約40分間、釣れ放しで「カツオ釣りって、こんな忙しいの？」と苦笑したが、一瞬たりとも休むことはなかった。

魚にとっても生きるか死ぬかの瀬戸際。相手が政界の大物だろうが何だろうが、海の中で暴れ回る。小沢氏は、同行した本紙釣りが担当スタッフが「足腰がしっかして、構えがいい。何匹も(魚を)取り込んだことがあんなにない」と大鼓判を押したほどの腕前で、またたく間に本カツオの山を築いた。真剣なまなこで

選挙翌日に電話が

7月の参院選のインタビュー取材に立ち会った際、「最近のストレス解消は、釣り」との小沢党首の言葉に、「取材を兼ねて今度、一緒にどうですか?」と水を向けると、「二つ返事で「せひ」行こう」とのこと。それでも多忙を極める小沢氏だけに、そう簡単には実現しないだろうと思っていたところ、意外や意外、選挙翌日の7月30日午前、「約束通り週末に行こう」との連絡が入り、驚かされた。



イラストライターの目

「海はいいねえ。頭をフルにして船に揺られて今年4回目」を待ちにしていた(らしい)ように、私も初体験である船釣りを楽しみにしていました。とはいえ餌は生きています。生魚なんて触ることもできず、ただオロオロ。小沢さんが単に乗り合わせた釣り人のオジさんなら「すみません、代わりにフック刺してもらえますか?」と頼めるのに、隣でパンパン釣りを続ける小沢さんとは対照的に私は結局4匹。トホホ。

赤パンツ見られた?

「選挙おつかれさま」を兼ねた釣りが、私、小沢さんの大漁を祈って、パワーが出ると思われる開運の赤パンツをこっそりと着用していたのです。(S記者によると、ラインズの股が浅く、チラチラ見えてたとのこと。恥ずかしい小沢さんにも見えなかったかしら。)

有言実行 約束を守る人

「約束通り週末に行こう」との連絡が入り、驚かされた。小沢氏は、今回の釣りに対しては、過去にも一般紙の記者が反対したにもかかわらず、訪米の同行取材を実現させてくれたり、自宅で小鳥を世話する様子などを見せてくれた。

折しも、小泉首相が総裁選前からの「公約」である終戦記念日の靖国神社参拝問題で国内外からの激しい反対に遭い、就任後、最大の岐路に立たされている。「一編言(ひんげん)汗のごとし」というが、政治家にとって言葉は本心に大切だ。